

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870400417
法人名	医療法人 青峰会
事業所名	アクティブライフ松柏
所在地	愛媛県八幡浜市松柏甲728-1
自己評価作成日	平成26年11月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年11月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>理念にもある「ゆっくり楽しくいつも一緒に」をモットーとし、家庭的な雰囲気を中心している 外出レクや季節の食事の提供で楽しみがもてる生活を心掛けている 塗り絵や貼り絵等で認知症の進行を防ぐ</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>6月の「家族交流会」時には、10名程のご家族が参加された。ご家族へは事前に「聞きたいこと」を知らせて、当日は「看取りについて」お話しした。その後、食事会にてご家族同士が交流する機会が作られた。欠席したご家族には資料が送付された。法人で、ご家族等に対して、今年初めてサービス満足度アンケートが実施された。ご家族からは、「ケアプランの評価を伝えてほしい」「食事の味が落ちた」等の意見があったようだ。今後は、改善策をホーム内に掲示することになっている。月1回、ご家族には写真付きで手書きの便りを送付している。「健康状態」「活動状況」「その他」と分けて詳しく報告できるよう工夫されている。便りに利用者に必要なものを記すようにしており、ご家族が持参してくれている。ご家族が「着せてほしい」と洋服を持参された時等には、連絡ノートにて全職員に周知されている。</p> <p>外出先の近くに利用者のご自宅があるような場合は、近くを通ってみたり、「自宅が見たい」という方には、お連れすることもある。新聞の記事に、利用者の地元のニュースがあれば伝えるようにしており、利用者の以前の暮らしぶり等を知る手がかりにもなっている。</p>
--

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 アクティブライフ松柏

(ユニット名) すだち

記入者(管理者)  
氏名 山崎奈美

評価完了日 H26年11月1日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を事務所、リビング、廊下に掲示しており、スタッフ全員が共有し心掛けている	
			(外部評価) 事業所は、開設当初から「地域の中で、その人らしく暮らしながら人間の尊厳を大切にしてい」「家庭的な雰囲気の中でゆっくり楽しくいつも一緒にをモットーとして自立支援を行う」と理念を掲げており、管理者、職員ともに、「ゆっくり、楽しく、いつも一緒」という部分を特に大事にして、皆でゆっくり座って過ごす時間を持つ等されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 夕涼み会では、地域の方に参加してもらったり、地域の行事に参加したり中学生との交流もできている	
			(外部評価) 職員が外の掃除をしている時に、近所の方からみかんをもらうこともある。地区の婦人会からは利用者一人ひとりにお寿司をいただくような機会もある。今年の敬老会は、地域の保育園に依頼して園児に来てもらい、歌や踊りを見せてもらった。利用者は子ども達の様子を見て涙を流して喜ばれたようで、12月のクリスマス会にも来てもらえるよう計画されていた。中学校の職場体験を受け入れており、運動会には利用者も応援に行っている。管理者は利用者の重度化のため、以前に比べて利用者が地域の方と交流する機会が減ったと感じておられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 中学生の福祉体験の受け入れや、夕涼み会開催で地域の人々との交流で理解、支援をしてもらっている	

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議を開催し、施設の現状や行事等の報告や意見をサービス向上に活かしている</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>会議は、「気軽に参加してほしい」という思いで「ちょっと寄って話さん会」という名称にしている。会議には、家族代表2名、公民館長や婦人会、市内の他グループホーム職員が参加されている。事業所からは、状況や行事の報告を行い、「研修について」「安全対策について」「事故報告について」「食事について」等、毎回テーマを決めて事業所の取り組みを発表しており、出席する地域の他グループホームの取り組みや対応を聞く機会にもなっている。管理者は今後、利用者も会議に参加できるよう、工夫したいと話しておられた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>他事業所の会議などに参加している 月に一回さわやか相談員さんが来られ意見を聞いている</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>3ヶ月に一度の地域密着型サービス連絡会は、現在、研修が中心となっており、市の担当者から「最近、誤薬事故が多いため、連絡会で研修してはどうか」と提案してもらっている。昨年は、連絡会の会長を事業所で務められた。月1回、さわやか相談員の訪問時には、1時間程度利用者のお話を聴いてくれており、「窓が開いて寒い」「ご飯の味付けが良くない」といった声があったようだ。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>スタッフ会で拘束の勉強会があり、拘束しないケアに取り組んでいる 玄関は施錠せず、開いたらチャイムが鳴るようにしている</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>玄関、デッキ入口窓にも鍵を掛けず利用者が自由に出入りできるようにしている。利用者の行動を制限するような職員の言葉かけが見られることもあるようだが、管理者は、「言わなくていいような状況を作るために、その方に合わせたケアをプランに上げていきたい」と話しておられた。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  スタッフ全員が虐待について理解し、注意して介護している アザや傷も事故報告書にあげ、予防に努めている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  権利擁護の制度があるのは知っているが、詳しい内容は分からない 現在利用している利用者はいない	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  ほとんど施設長が行っている 契約時に重要事項説明書に沿ってゆっくり時間をかけ説明を行い、疑問や質問に理解、納得して頂けるよう対応している 改定の際にも文章を送付し質問があれば説明している	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  家族の意見を聞ける様に、年一回家族会を行ったり、面会時や日常の会話の中で意見を聞き運営に反映させている また、意見箱を設置しており、意見があればスタッフ間で話合うようにしている  (外部評価) 6月の「家族交流会」時には、10名程のご家族が参加された。ご家族へは事前に「聞きたいこと」を知らせて、当日は、「看取りについて」お話しした。その後、食事会にてご家族同士が交流する機会が作られた。欠席したご家族には資料が送付された。法人で、ご家族等に対して、今年初めてサービス満足度アンケートが実施された。ご家族からは、「ケアプランの評価を伝えてほしい」「食事の味が落ちた」等の意見があったようだ。今後は、改善策をホーム内に掲示することになっている。月1回、ご家族には写真付きで手書きの便りを送付している。「健康状態」「活動状況」「その他」と分けて詳しく報告できるよう工夫されている。便りに利用者に必要なものを記すようにしており、ご家族が持参等してくれている。ご家族が「着せてほしい」と洋服を持参された時等には、連絡ノートにて全職員に周知されている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			スタッフ会で職員の意見や提案を聞く機会を設けている内容によっては法人の会議で要望や意見が伝わるようになっている	
			(外部評価)	
			法人の会議時は、現場の意見を挙げる機会となっており、自転車置き場の屋根の設置等が実現している。人事評価制度では各自が100項目の自己評価を行い、個人目標を立てている。管理者は、面談時に、良かった点、出来ていない点を伝えて話し合われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			法人内に人事考評制度、登用制度がある 能力開発カードにより目標をかかげ、向上心を持って働けるようになっている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			法人内外の研修を受ける機会を確保してもらっている 自分の知識のレベルアップが出来ている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			行事や運営推進会議等を通じて同業者との情報交換を行っている 一部ではあるが、法人内でも相互研修や勉強会、委員会などで交流する機会がある	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			利用する前に管理者が面会を行っている 入居に対する不安要望等に耳を傾け、入居時の不安軽減に努めている	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス開始時に御家族等の困っている事、不安な事を聞きとり情報を共有している 何でも話していただき、よりよい信頼関係が出来るようにしている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用開始時に本人、御家族の希望状況を確認し、改善に向けた支援の提案をはかっている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 理念にあるように、家庭的な雰囲気の中で、ゆっくり楽しくいつも一緒にをモットーとし、家族の一員と思って接している	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時に日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、一緒に本人を支えていく関係作りを築いている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方については、いつでも気軽に来て頂けるような雰囲気作りに努めており、ゆっくりとお茶を飲みながら話して頂けるように配慮している 馴染みの場所については、高齢化が進み、以前ほど出掛ける機会がなくなっている (外部評価) 外出先の近くに利用者のご自宅があるような場合は、近くを通ってみたり、「自宅が見たい」という方には、お連れすることもある。以前、利用者がよく出かけていた商店街の「八日市」に買い物に出かけてみることもある。新聞の記事に、利用者の地元のニュースがあれば伝えるようにしており、利用者の以前の暮らしぶり等を知る手がかりにもなっている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 席替えをしたり、トラブルになりそうな時はスタッフが間に入り、対応している 孤立するような事がないように、スタッフを交えて話し合いをしている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後なかなか支援する事は出来ないが、相談があれば心よく対応するように心掛けている	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望を汲み取ってそえるよう努めているが、全ては難しく、本人自身分かっていない事もあり、家族等とも話をして検討するようにしている	
			(外部評価) センター方式を利用し、3ヶ月に一度アセスメントを更新している。利用者には、昔の事をお聞きして、好きだったこと、したいこと等の把握に努めておられる。調査訪問時、入居間もない利用者の意向を探るため、職員は利用者とお話しながら、ご家族のことや入浴の習慣等について聞いておられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居情報やサマリー、本人の昔話を聞いたり、家族とのコミュニケーションをとって、サービス利用に活かせるよう努めている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタル測定で健康チェック、好きな事や出来る作業、楽しく過ごせるよう現状の把握をしている 様子観察を重視している	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	三ヶ月に一回ケアプランの見直し、家族本人看護師の意見を受け、スタッフ会等で話し合い、介護計画を作成している
			(外部評価)	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	日々、個々に介護記録を記入し変化に気がついた場合、申し送りやスタッフ間で情報共有し見直し活かしている
			(外部評価)	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	受診時、家族同伴出来ない場合等、通院介助等その時々ニーズに合ったサービス提供を行っている
			(外部評価)	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	地域の防災訓練や行事に参加する事で、ボランティアの方々に来てもらったりして楽しく安全に暮らせるよう支援している
			(外部評価)	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)  定期的にドクターやナースの往診訪問で連携していて、急変時には対応している また、毎日の様子をファックスで報告している	
			(外部評価)  ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医としており、往診を受けている。協力医は、24時間対応可能で、急変時にも、医師と直接連絡が取れるようになっている。又、週5回来られるため、職員は医師と話がしやすくなり、心強さを感じておられた。又、看護師の訪問もあり、利用者の健康管理をしてくれている。必要時には、訪問歯科も利用されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)  連携ナースが週1回来ている 体調変化や気づきを伝え相談し早急に対応してもらっている	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)  母体が病院のため、入院中には連携ナースを通じて情報交換ができています	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)  終末期のあり方についてはアンケートをとっている 施設内出来る範囲は家族に伝えており、状態変化ごとに家族と話し合い相談するようになっている	
			(外部評価)  家族会時には、事業所で「看取りの流れ」の資料を作成し、他グループホームでの看取り事例等も交えながらお話した。2年前に看取りについて意向をお聞きするアンケートを取った際には、「まだ分からない」という声が多かったようだが、管理者は、又、ご家族に意向をお聞きしたいと話しておられた。職員は、看取りについて外部研修を受講しており、事業所内で研修報告して情報共有されている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時に備え、交代に消防署での救命講習を受けている 定期的な訓練は受けておらず、少し不安はある	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年二回避難訓練は行っている。しかし利用者全員参加ではない為(危険性をともなう利用者)現実となるとまどう事があるのではないかと 訓練後は消防職員よりアドバイス、注意点を頂いている	
			(外部評価) 4月の火災訓練時では、実際に煙を焚いて避難訓練が実施された。消防署からは、利用者の抱え方を教えていただいた。10月の訓練では、過去の火災訓練を再度行ってみたが、前回の反省点の「ドアを閉める」「大きな声を出す」ということが十分には出来なかったようだ。地域の防災訓練に、職員・利用者各1名ずつ参加して、担架づくりや止血方法の確認をされた。事業所は「原子力災害対策重点区域」に立地しているため、避難計画を作成し、松山市に受け入れグループホームが確保されており、管理者が見学に行かれた。事業所では、利用者、職員のごはん、おかゆ、水を3日分備蓄しており、座布団で作った防災頭巾も準備されている。現在、車椅子を使用する利用者も多く、避難方法についても工夫が必要となっている。地域の方達とも協力し合いながら、安全を守れるような体制を今後もさらに作っていかれてほしい。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレ誘導時のさりげない声掛け、更衣時自室で更衣して頂くなど、配慮している	
			(外部評価) 職員は、方言等も交えて、「親しみやすい話し方」を心がけており、又、「みんなに平等に声をかける」ことに努めておられる。調査訪問時、職員は、介助前に必ず声かけをしたり、利用者が決めることができるよう、言葉をかけておられた。又、話題を挙げて、一人ひとりに意見を聞いているような場面も見られた。ホーム新聞に載せる利用者の写真は、ご家族に同意を得て使用されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話の中、表情等で今何と思っているか汲み取るようにしている また、色んな場面で自己決定できるように働きかけている	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースに合った過ごし方をしてもらっているが、時にはスタッフの都合上利用者に合わせた介護が出来ない場合がある 声掛けするも、自分のペースで過ごしたいといわれる時は自分のペースに合わせ過ごされている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴時等の服を選んでもらったり、衣服が汚れている場合は声掛けをして更衣してもらったり、その人らしいと思える支援を行っている	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材の下ごしらえ等出来る事は手伝ってもらっているが、全体的にADLが低下しているので食器洗い等は出来なくなった  (外部評価) 「職員が利用者とかかわりを増やす」という目的で、今年6月から業者から食事が届くようになっており、1階ユニットは、朝・夕食、2階ユニットは、夕食のみ利用している。事業所で手作りする食事については、職員が月交代で担当して1ヶ月分の献立を作成している。食材は、配達を利用している。昼食前には、皆が揃ったことを確認して、利用者のお一人が「いただきます」とあいさつして食事を始めていた。職員も介助しながら、同じものを食べていた。10月には希望や体調を見て数名の方で外出に出かけられ、いつも以上に食欲が増した方もあったようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎回食事の摂取量を記録し摂取量の把握をしている 10時15時入浴後の水分補給、数名の方は自室にお茶を置き、いつでも摂取出来るようにしている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアの声掛けにより習慣になっている 自分に出来ない方には声掛けし一緒に行っている 週一回入れ歯消毒を行っている	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を作成し、一人一人の排泄パターンをつかみ自尊心を傷つけないようにトイレ誘導の声掛け、オムツ交換を行っている	
			(外部評価) 日々の介護記録の中の日課表には、あらかじめ、利用者別にトイレ誘導の時間を記しており、時間をみながら支援されている。トイレまでの移動に介助が必要な方も、なるべくご自分の力を使って移動してもらえよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) お腹のマッサージや水分摂取等を行っているが、ほとんど薬に頼っている状態	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々の希望にはなかなか沿えてなく、週2回の入浴支援と本人が拒否された場合は無理に入浴するのではなく、次の日に入浴してもらっている	利用者が安全で気持ちよく入浴できるような設備整備をすすめてほしい。利用者の入浴についての希望等の把握に取り組み、家族会時に話し合う等しながら取り組まれてはどうか。
			(外部評価) 浴室の入り口や浴室内のスペースに制限があり、車いすを使用する利用者の支援が難しくなっている。浴槽で温まることができない方もあり、シャワーと足浴等で支援されている。「毎日入りたい」という利用者には、毎日支援していたが、入浴後にも「入浴したい」と言われるようになり、現在は数日ごとの支援となっている。利用者ごとに脱衣かごやシャンプー等を用意しており、調査訪問時には、脱衣所に暖房をかけて入浴の準備をされていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 高齢の方が多く、疲れやすいので個々に合った休息をされている	
			(外部評価)	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個別に処方箋をファイルしており、変更あれば業務日誌にて記録しスタッフ全員が把握できるようにしている また、変更後は症状等の変化を観察しドクターへ報告している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々に合った作業など役割提供ができています 季節に応じた行事や月1回の外出もあるが高齢によりADL低下等で外に出れないときもある	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 真夏、真冬を除いて月に一回外出レクを実施しているが、高齢やADL低下全員参加が難しくなってきたり、入居者の希望に添えてない所もある 家族と外出される方もいるが、一部である 戸外への散歩も行っているが頻回には行けてない	
			(外部評価) 近所のドラッグストアに買い物に出かけたり、近所を散歩されている。月1~2回少人数で外出しており、春のお花見には、近所の公園に全員で出かけ、ミキサー食の方も事業所で準備して出かけられた。8月には、そうめん流し、11月には三間にドライブに出かけた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出レクのときは好きなものを買っているが、自分で支払えるのは数名で、ほとんどがホームで立替えて払っている	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙やハガキはスタッフが手伝ってポストへ投函している また、送られてきた手紙についてもすぐ本人に渡している 電話についても取次ぎを行ったり、耳の遠い方等は返答を代わりに聞いたり希望に応じて対応している	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p><b>(自己評価)</b> 季節に応じた飾りや、利用者様の作品を展示したりあいている 各部屋には、本人が塗ったカレンダーを作成したり写真を飾ったりしている 光や温度調節もこまめに行っている</p> <p><b>(外部評価)</b> 中学校に隣接しており、事業所敷地内から生徒の活動の姿が見られる。調査訪問時には、玄関入口にポインセチアの造花を飾り、居間の壁面にはクリスマスの雰囲気を楽しめるよう飾られていた。温度湿度計を設置し、確認して加湿器を使っている。2階の居間は、天窗からの自然光が入り明るい。管理者は、今後は、玄関チャイムの音量を下げたり、トイレの呼び出し音が不快にならないように配慮したいと話しておられた。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p><b>(自己評価)</b> 廊下やリビングには椅子やソファがあり、ゆっくり自由にくつろげるスペースはある 又、テーブル席では作業したり皆で会話できるがトラブルが起きないように席替えをしたりしている</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p><b>(自己評価)</b> 馴染みの道具や写真等を飾られ、その人なりの個性ある居室になっている 本人作の塗り絵やカレンダーを貼って居心地よく過ごしている 認知症が進むにつれ、部屋に使い慣れた物がだんだんなくなる方もいる</p> <p><b>(外部評価)</b> 各部屋にベッドとタンスが備え付けてある。全居室、窓には障子を入れおり、障子越しにやわらかい光が入っていた。入口には短めの暖簾をかけている。ご家族の意向で健康のため、磁気入り敷パッドを使用している方もいる。日本画を描いたり、折り鶴を折って自分で飾り付けしている居室も見られた。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p><b>(自己評価)</b> 居室ドアに作品や名前、写真等を貼り、自室がわかるようにしてある トイレや風呂場等わかりやすく表示している ホーム内手すりやバリアフリーだが、トイレ、浴室入り口が敷居があり、車椅子では乗り越えにくく、改善策をお願いしているがまだ解消されていない</p>	